

月刊

ENGO
4月号

2013年4月1日

カトリック大阪大司教区ENGOプロジェクト

発行責任者：松村繁彦

連絡先：TEL：090-5258-5704

(平日 18時～21時)

FAX：06-7494-9845

e-mail: engo@osaka.catholic.jp

東日本大震災2周年祈念イベント 「3・11 つなぐ」開催

2013年3月10日、東日本大震災祈念イベント「3・11 つなぐ」がサクラファミリアにおいて開催されました。講演会、コンサートと朗読、追悼の祈りが行われ、その間パネル展示と被災地の物品販売も行われました。

16時から上智大学の田淵六郎教授による講演会が行われました。震災発生前から被災地では過疎化による地域や家族の分断が進んでいましたが、震災によってこの分断はさらに大きくなりました。また原発避難地域においても同様の現象が起こっており、「復興」を考える上で大きな課題になると指摘されました。



田淵教授の講演の様子

その上で、「復興」とは地域住民の一人ひとりが、地域の過去と現在を見つめ直しながら、未来に向けて、どのような地域を復興したいのかを考え、語り合っていくプロセスが必要だと示されました。そのためには、地域外の人も参加して「聞き書き」

によって、地域の魅力や独自性を認識することが重要であること。あらゆる世代の人びとと外部からの人びとが協力して対話の「場」をつくり、未来にむけた「ものがたり」を紡いでいくことが求められていると指摘されました。

引き続き聖堂でコンサートと朗読が行われ、歌手の奥野勝利さんが人と人とのつながりの大切さや、被災された方との交流を紹介しながら熱唱されました。



奥野さん、魚住さんの弾き語りの様子

コンサートの中でMBS ラジオ「ネットワーク 1・17」のパーソナリティーを17年間つとめられたフリーアナウンサーの魚住由紀さんが、岩手県陸前高田市の奇跡の一本松を題材とした詩を朗読されました。津波被害から復興への第一歩を奇跡の一本松の視点を通して力強く語られました。

最後に聖堂で「追悼の祈り」が行われました。大自然を前にした祈り、岩手県・宮城県・福島県の人びとのための祈り、子どもたち・外国籍の人びとのための祈り、現地でボランティアに関わる人びとのための祈り、国の復興支援政策にむけての祈りが共同祈願の形でささげられました。



神田神父の先唱による追悼の祈り

参加者は2年前のあの日を思い出して犠牲者を追悼し、また今も復興の途上で苦しい生活を余儀なくされている人びとのために、真剣な表情で祈りをささげました。

これらのイベントが行われている間、ENGOは被災地の状況を写したパネル展示と被災地の物品販売を行いました。



パネル展示の様子

岩手県から釜石市の「日本酒」・「釜石ラスク」・「魚介類」（鯖、鰯の味噌味付け）、大船渡市の「サンマのみりん干し」・「被災地松はがき」、陸前高田市の「南部風鈴」・「リンゴチップス」・「日本酒」を、宮城県からは南三陸町の「椎茸かりんとう」、塩竈市の

「みそ」（カトリック塩竈教会婦人会）を、福島県からは「あめ」を販売しました。

参加者は被災地の1日も早い復興を祈りながら、被災地の物品を購入していました。



被災地物産展

東日本大震災からもう2年の月日が流れました。被災地では復興が遅々として進んでおらず、2年前のあの日の惨状をとどめたままの場所も多く残っています。

まだまだ復興には時間がかかります。今、私たちにできることは何かを考え、それを実行することが大切だと思います。被災された方々と心を合わせて、復興のために力を尽くしていきたいと思っています。

パネルの貸出しについて

この一年間、多くの方々にパネルを利用して頂きました。ありがとうございました。これからも多くの方に利用して頂きたいと思っていますが、パネルの内容は震災から約半年の間に撮られた写真をもとにして作られています。その点をご了承くださいますようによくお願い致します。

ご利用を希望の方はお気軽にご連絡ください。



(A3版 28枚セット)